

ほっぴ・ステップ・JUMP!

(保つ父) 1991・4・10

VOL. 12 発行 北海道の子どもと保父の会

希望の四月

会長

小田 進一

新年度が始まり、玄関先に新入児が不安な表情でやって来ます。それぞれ進級した子ども達も新しい友達や新しい先生、新しい生活になじむために一所懸命です。また、新一年生が真新しいランドセルに晴れ着を着て入学式後に顔を見せてくれたりもします。中学に入学した子たちは、ちょっと照れくさそうにしかし誇らしそうに通勤途中の私に声を掛けてくれます。高校に入った子は、ほんの一・二名だが、保育園まで報告にきてくれました。子ども達の四月は、本当に希望に満ち溢れています。私達のこの会のメンバーにも新しい職場を得て新たな生活に希望をもって望んでいるものもありますし、また反面、壁にぶちあたって気の重い慌ただしいだけの四月を迎えているものもあります。

幼児期から学童期へ、そして青年にと成長を続けていく子ども達を見ていると、その子の持つ個性がどのように生かされ、また丸くされて行くのがおぼろげながら見えてきます。私達保育者の持つ個性も子育ての過程で子どもと一緒に育てていきたいものですが、《男性》という個性が必ずしも認められてはいないのが現状です。真に自立した保育者集団作りの一翼を担うべく私達は、もっとアピールしたいと思います。子ども達につながる私達の夢を忘れず、希望をもって日々の保育にあたるよう語り合い磨き合って行きましょう。

会員紹介

(一) 大泉 修 年齢は当年とって二十五才 午年生まれ。現在札幌市手稲区にある前田幼稚園で年長児クラス補佐として働いている(実際はバスの運転の方が多いのだが)。東京の小平市の出身で大志を抱いて北海道にやってきたという野心家である。将来の夢は世界の子ども達が交流できる北海道にしたいという事である。

(二) 伊藤 裕 年齢は、二十四歳 大泉君と同じ午年である。特技は、全身バネのような体を生かしたジャズダンス! 知る人ぞ知る彼の踊りを一度観て欲しい! 将来は、アメリカで自由に生き永住すること もしくはすると本格的に踊りを行いイントラになるのでは・・・保父出身の名の知れた男になることを期待する。

「風に吹かれて。」 保父修行物語

その12

第二八トポツポ保育園 船戸 敬悦

長野縦走の旅にチャレンジした今年の夏も終わり季節は秋を迎えようとしていた。大阪は九月だと言うのにまだまだ蒸し暑く西日がさす保育園の園庭では子供達が、思い思いの遊びを楽しんでいた。「先生ドンドンバシヨ」と子供達にせがまれて、「よっしゃ！ やるか。」とわらべうたあそびが始まると、何人かの子供達も砂遊びをやめ「ヨシテ。」と遊びの輪の中に入ってくるのだった。やがて遊びは鬼ごっこへとかわっていくのだが、ふと横を見ると、下駄箱の上にT子ちゃんが座っていた。「一緒に鬼ごっこしようか？」と誘うと「アカンワ。」「なんでや先生と一緒にやらええやる。」「しらずにはあるがT子ちゃんも私と手をつないで鬼ごっこ遊びの中に入って

いく：「T子ちゃんもはいつたで。」

「エーヨ。」と答える子供達。鬼役のK君が、「T子チャンマテ。」と、追い掛けると、「キヤー アカンワー」と言いながらニコニコと笑顔を満面にみせて逃げるT子ちゃんになってきていたのが嬉しかった。朝のおはよう会の時など皆の前でおどけて見せる姿も見られるようになってきたり、保育者とのレポートも少しずつついてきていた。T子ちゃんが一番のお気に入りは、絵本「おしいれの冒険」のなかに出てくる《ねずみ ばあさん》だった。T子ちゃんが「ネズミバアサンヤデー」と友達や保育者を脅かすたびに「ウワーネズミバアサンガ キター」と逃げると大喜びして何回も何回も「ネズミばあさんごっこ」が園庭や保育園中を舞台に毎日のように繰り広げられるのだった。他の子供達も逃げる役 追い掛ける鼠達のやくになりきつ

て遊びが広がっていき「センセイ ミニカーヤデコイチモツテクル」と次第に冒険遊びの魅力にT子ちゃんも含めてクラスの子供達もひきこまれていくのだった。そしてこの冒険遊びがこの年の生活発表会での劇遊びとして発展していくのであった。

「俺の車は軽だった」

大泉 修

川の流れを見ていたら

水が動いていた

小枝がゆれているのを見ていたら

風が吹いていた

海の輝きに目を細めたら

太陽がまぶしかった

信号が青になる

横を車が何台も追い越していく

俺の車は 軽だった

子育て日記

（男の保育、男も保育？）その三

北風クラブ 船山 利洋

分娩出で待つこと数時間、多少の苛立ちを覚えながらも、気分はとんでいた。

「おぎゃー」

おつ、うちの子か（！？）と想つた瞬間「産まれましたよ」と婦長さんに呼ばれ我が子との感動の対面。「男の子ですよ」の声に耳をかすこともなくポコチンをさがすべく、おくるみ（産着）を脱がしていた。写真をとることを許してもらい、フラッシュをたき、たて続けに何枚か撮る。

その後、我が子は保育器のままエレベーターに追い込まれ、ほつとした表情のカミさんに「おつかれさん」の一言。カミさんの顔が、これほどきれいに見えたのもこの時である。（嫁さんにして良かった！）

一週間ほどで退院となるが、その間毎日仕事を終えては天使病院へと向かう親馬鹿ぶりである。退院後しばらくカミさんの実家のいわゆる《おばあちゃん》になる人が色々と面倒を見てくれた。感謝に絶えない。風呂の入れ方、おしめのかえ方等々じっくりと見、知ることができ

おばあちゃんの帰ったおともさほど心配なかった。

いよいよ、父親として始めてのお風呂である。ベビーバスにお湯をはり、温度計で温度を調べる。なおかつ手でかきまぜて湯加減をみる。（いささか神経質か？）片手でひよいと抱き湯船に浸ける。顔から順に体を洗い、髪の毛も忘れてはならない。……なんとも言えない気分である。そんなこんなで、いよいよ、最初の子の悪戦苦闘の男の育児が、かくも、にぎにぎしく展開されるのです。次回に続く。乞う、御期待！

友達

前田幼稚園 大泉 修

久しぶりにヤツが遊びに来た。

「どうだ、調子は。」

「バスも楽じゃねえよ（俺は幼稚園でバスの運転手をしている）。」

不満げに答えた。

「またカレーかよ。」

そう、こいつが来る日はほとんどカレーを食べている時だった。と言うより

食費を安くあげるため、どうしてもカレーをつくる事が常であった。

「おまえ、学生の時の方が金あったよな。」

「まあな、仕方ねえよ。別に苦じゃねえし、やりてえことやってんだからよ」
「大学卒業してビンボーしてんの、おまえだけだぞ。」

「へっ、ビンボーひまなし、みんなやりたいことやってて金もらつてんのかね。金に使われているより、やりたい事やってカレーライスの方がいいぜ」

「強がり言つてんじゃねえよ。やりたいたい事つたつて、保育やりてえのにほとんどバスじゃねえかよ。」

「強がりじゃねえよ。来年やめんだから。」

「何すんだよ。」

「保育所に行くんだよ。」

数日後、競馬で二十万勝つたヤツは、ジャガイモ十kg、にんじん五袋、缶詰三十個、ボンカレー三十個、業務用シチュー粉一kg、鶏肉六kgを俺にプレゼントしてくれた。

お知らせ

住所の変更がありましたので、お知らせします。

小田進一さん

船山利洋さん

【勤】北風クラブ

栗山町で臨職をしていた沢田英光君が、四月より大泉さんの「札幌ベビールーム」で働く事になりました。理想の保育を求めながら、更に保父の会の活動にも積極的に参加してくれる事を期待しています。

四月の例会は、神奈川男保連から第六回全国交流会の様子を撮ったビデオが送られてきましたので、それを見ながら大会の雰囲気分かちあいましょう！更に三月の例会でやる予定だった伊藤くんを講師に迎えての「身体表現」の勉強会もやってしまおうと思っております。多数の参加を待っています！

四月二十日です。

会計よりのお願い

新年度に入り、会員の皆様はそろそろ疲れが出てきている頃だと思えます。更に追いうちをかけるわけではありませんが、平成三年度の会費（三千元）を集めておりますので、「北洋銀行 北郷支店 031・3222 北海道の子どもと保父の会会計 瀬尾昌彦」まで振り込みをお願いします。

事務局より

今回より「会員紹介」のコーナーを始めましたが、文章を書くための資料情報が不足しておりますので、会員の皆様には、是非自分の略歴を送って下さる様お願いします。**これは早急にお願いします。**またその際に、出来ましたら色々な原稿もついでに送っていただけるとなお有難たいのですが。



事務局

003 札幌市白石区北郷二条三丁目
北白石保育園内